行 政 視 察 報 告 書

令和７年１１月４日

長浜市議会議長　伊藤喜久雄　様

長浜市議会議員　　髙山　亨

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　令和７年度　健康福祉常任委員会　行政視察研修
２．視察期間　　令和７年１０月２２日（水）～２３日（木）
３．視察場所及び目的
　大阪府泉大津市…泉大津市役所担当課にて
　　健康増進施策あしゆびプロジェクト、マタニティ応援プロジェクトについて学ぶ
　大阪府豊中市…豊中市立児童発達支援センターにて
　　療育（０歳～就学前）の取組について学ぶ

４．調査内容感想等

＜視察の目的＞

①泉大津市では、健康増進施策として「あしゆびプロジェクト」に取り組まれている。なぜ健康増進が「あしゆび」なのか、その意図や効果、どのような取組を全世代にわたってされているのか一等について学ぶことでした。

　もう一つ、子育て支援策の一環として、「マタニティ応援プロジェクト」で金芽米を毎月無償配布するというユニークな取組について、そこに至った経緯や市民や対象の妊婦さんなどがどう評価されているのか一等について学ぶことでした。

②豊中市では、療育（０歳～就学前）の取組について、豊中市立児童発達支援センターにて、総合的に取り組まれ、中心的な役割を果たされているという。そのシステムや、療育にとってどのような取組が必要なのか、学んでいくというものです。

長　浜　市　議　会

＜視察内容＞

●泉大津市

１）あしゆびプロジェクト（報告／健康こども部健康づくり課　課長　谷中由美さん）

・このプロジェクトの背景と経緯

…健康寿命延伸のためには、生涯寝たきりにならない身体づくりが大切として、高齢者においては、転倒しないバランス能力の強化と下肢の筋力強化が必要。子どもにおいては、約８割が足に何らかの異常を抱えていると言われており、幼児期から足の指を使った正しい姿勢と動作を覚え、体幹を安定させることが将来の健康づくりにつながると考え、全世代の市民運動として取り組み始めた。特徴は、あしゆびから展開する健康プログラムを「官民連携」「市民共創」のもと、平成３０年から『あしゆびプロジェクト』として進め、全国にも発信しているということです。

その柱は、①足指の力と足指のアーチ（土台）、②体幹（軸）、③正しい姿勢と動作（骨格）の３つで、それをベースとした取り組みを展開中。

・全世代別の取組

…①乳幼児期／業者委託の「親子運動あそび教室」、コーディネーター講師の雇用で体操やサーキット遊び、あしゆびリーフレット作成活用、家庭での親子の取組

②幼児期／無償提供の足袋シューズでモデル園にて効果検証、上履きに草履推奨、保育の中で「おづみん体操プログラム」DVD を活用、民間事業者や大阪体育大学とモデル園で足指や運動能力の測定実施、市立公園所におけるファンクショナルマット等で体幹強化。

③学童・思春期／体育のカリキュラムに体幹強化のプログラムを入れる。

④青・壮年期／あしゆび健康セミナーの実施、青壮年期向けのセルフトレーニング動画を作成、正しい靴の選び方や靴紐の結び方などシューズフィッティング要素をいれたプログラムも実施。

⑤高齢期／足指体幹体操を自主サークル等で実施推奨、セルフケアに取り組めるツールの作成、大阪府立大学と提携しての介護予防自主サークルのあしゆ

び運動の効果検証、スポーツクラブと連携しての筋力レベルアップ教室の開催。
⑥全世代／イベントや集団検診の場でのあしゆび力測定、鼻緒のある草履の推奨（職員も率先して履いている）、毛布の縁を利用したモフ草履の作成と推奨、足指市民モニターでオーダーメイドインソールを作成しての健康影響評価を実施。

・評価結果
…すぐに効果が出るものと、数十年かかるものとがあり、検証効果を図ることは用意でなく難しいが、公立園所における児童の足指運動プログラムの前後では、２５ｍ走、立ち幅跳び距離、足趾把持力が向上したというデータが出ています。また、小学３年５年生ともに、反復横跳びが大阪府平均を上回ったなど、効果が出ているのではとしています。高齢期の筋力レベルアップ教室で、参加前後のあしゆび握力が平均 0.4 kg向上や、腰痛を感じる度合いが約 4.0 ポイント減少するなども出ています。

２）マタニティ応援プロジェクト（報告／子育て応援課　課長　向井由佳子さん）
・概要
…令和５年度より、妊婦に毎月１０kgの栄養価の高い「金芽米」をプレゼントする取組。妊娠届提出時に金芽米 2 kgをすべての妊婦に提供。プロジェクト参加者（Web 申込）に対して金芽米最大 10 kgを出産月まで毎月提供。妊婦健診等の健康データやアンケートにより健康効果を検証。
参加者は６５３人（対象妊婦の約 74%）。

・目的とキッカケ
…食による妊婦の健康増進、食による行動変容を促し、健康リテラシーを向上させる目的で開始。東洋ライスが生産している金芽米の無償提供があり、それをきっかけにこのプロジェクトをスタートさせた。

・令和６年度以降の取組

…対象者を一部変更し、泉大津市に住民登録がある妊婦や米配送日に居住し受け取れる妊婦、4 月 1 日以降に妊娠届け又は受診券交付申請書を提出した妊婦（希望者）とした。また、金芽米の提供についても、配送時に「妊娠支援レター」の同封や、11 月配送分からは、農業連携自治体からの玄米を使用した。参加者は５３６人（対象妊婦の約 87%）

・令和６年度の事業費
…4 月～7 月までは東洋ライスに費用負担をお願いした。8 月以降～年度末までは市の予算（委託費も含め、総額 1859 万 7 千円）で賄った。

・令和７年度の事業費
…１年間、市の予算（委託料がほとんど、総額 3386 万 5 千円）で賄うことになったため、前年度よりは、大幅に増額。

・泉大津市の米穀調達運送加工管理等業務委託
…生産者から生産された玄米の輸送から保管、生産精米を配送するまでを一期通貫する事業。安定して安心できるコメ（有機 JAS 米又は特別栽培米）を確保するために、コメ生産者・自治体（自治体間農業連携協定）と連携する仕組みをつくった。

・健康効果
…参加者からは満足度や幸福度がアップした感想や経済的支援として助かった声、健康や食生活を考えるきっかけになったなどの声が満載。妊産婦を対象にしたアンケート（101 人）でも便秘や胃の張りなどの妊娠中の体調不良が軽減されたと出ている。101 人から生まれたうち 83 人の出生体重と 1 か月児健診のデータから体重は増加傾向で、1 か月児の体重も過去 4 年間の各年度平均と比較して有意に増加している。

３）その他

・人口約 7 万 3 千人の大阪府南部の大坂湾にのぞむ小都市である。老年人口比率 26.26%と大阪圏のベッドタウンとして発展し、若い世代が多い街ともいえる。繊維産業が地場産業で、現在でも毛布の産地として日本一を誇っている。街のあちこちにある下水道マンホールの図柄は羊であり、南海泉大津駅前にも羊の銅像がシンボルとして座っており、市のマスコットキャラクターを子羊の「おづみん」としてあちこちに利用されている。

・泉大津市役所から南海泉大津駅に行く途中に、最近整備された様々なイベントも可能な公園（SHEEPATH PARK）で、雨の中はだしで遊んでいる小学生数人を目にし、あしゆびの健康推進が生きているのかと感じた。

●豊中市

１）豊中市立児童発達支援センター／療育（０歳～就学前）の取組

・センターの基本構想

…豊中市では、以前より障害のある又は配慮を要する児童の増加に対しての取組が始められている。平成 28 年の「障害のある子どもへの支援の基本的な考え方」には、配慮を要する子どもの増加と総合的な支援の必要性について書かれており、課題として、市民への啓発活動の強化、家族支援・保護者支援の必要性、療育の確保・提供、関係機関の連携・共通認識、人材育成など多岐にわたっている。その考えの延長に、「新児童発達支援センター」を整備することが基本構想としてまとまり、平成３１年<2019 年>３月までに整備等を完了し、４月から支援事業運営開始となっている。

・センター事業

…①障害児通所支援事業（60 名定員）、②子供療育相談事業、③診療所、④その他、一時預かり事業等の４事業を総合的に取り組まれている。

①の内容は、親子通所（就学前の肢体不自由児、２歳児の発達課題のある子ども）、単独通所（発達課題のある３歳～５歳児）、就園就学後小集団親子教室、放課後デイサービス（中卒以上の発達障害児：利用１６名）であり、これらすべて

を杉の子会という民間事業者に委託されている。

②の内容は、センターにおける相談支援事業、親子教室や支援講座などの他に、訪問支援事業として、保育所や通所支援事業所、医療的ケア児訪問保育、発達支援巡回訪問なども多岐にわたる。

③の内容は、医師が常駐し、乳幼児期から青年期までの幅広い診療体制（リハビリもあり）や発達検査の体制がとられている。

職員数は２０名、パート９人をあわせて、センター運営を行っている。行政職は４名でそのほかは、社会福祉士、保育士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理療法士、保健師、医師、看護師等の専門職となっている。

２）その他

・人口約４０万人の中核市。大阪府中央北部の大阪圏のベッドタウンとして発展。近くには伊丹空港や高速道路、阪急鉄道や大阪モノレールなど、交通の便が良い地域であり、運送業や製造業の集積もある。第3次産業従事者が77.7%と多く、第1次産業は0.3%である。老年人口比率 25.81%と、働く現役世代が多い街であるが、同時に昔ながらの古い歴史も垣間見える。　（※右の豊中市のマンホール図柄はワニ）

＜行政視察の結果を本市にどのように反映させるか＞

●泉大津市

現市長のつながりやアイデアで、あしゆびプロジェクトやマタニティ応援プロジェクトが始まったり進められているようだ。首長の考えや意欲がうまく職員にも伝わり、市民の願いと一致すれば、良い施策になるのを実感した。

あしゆびプロジェクトに関して、足を鍛えることや幼児期に裸足で日々を送ることがその後の健康につながることぐらいは、どこの保育園や各自でも取り組んでいることだが、市の重要施策として全世代型の健康プロジェクトへと発展させ推進していく発想は見習いたい。

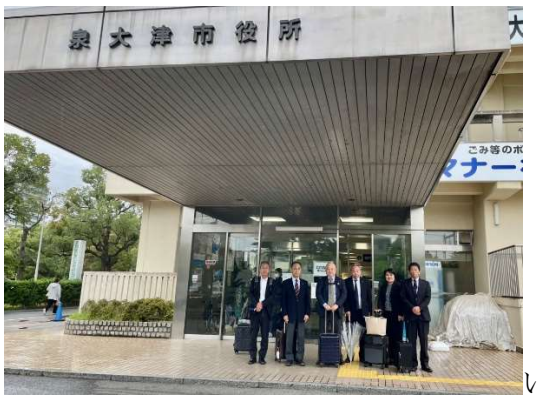
幼児期の運動能力など、すぐに効果が表れるデータ化は意欲をもたらすが、中学生以上の成人の運動効果は、長期間の調査検証が必要になってくる。そのためにも、毎年様々な取組で市民の関心をあしゆびに向けさせる仕掛けが必要だが、

今のところ、うまく取り組まれていると感じた。

マタニティ応援プロジェクトに関して、現金でなくコメの現物にされた理由を聞いたところ、明確に「健康増進をはかり、市が子育て応援のメッセージを送り相談にのれるようにするため」と答えられた。この施策の大事な点を押さえられていたのを感じる。単なる経済支援でなく、中身のある支援を考えられた点は学びたい。

●豊中市

市立児童発達支援センターを訪問したが、やはり規模が違うことに驚いた。職員・専門職をこのセンターに集中し、総合的な支援ができるように取り組まれている。そして、障害児通所支援事業については、民間の事業者に委託をされており、その理由についても質問を通じて答えていただいた。その答えは、それぞれの施設での子どもや親との対応は、各施設（事業所、保育園等）にお任せしながら、市が取り組む事業は、一人一人の総合支援という観点で、その子どもがどのような施設でどのような関りが必要かを丁寧に発達状況を見て考えていくというものだった。そのためにも、親や家族支援も含め、保育園所や通所事業所との連携を密にしながら、子どもの状況をきちんと観察する巡回等に力を入れているとのことだった。それぞれの施設ごとに、子どもの状況を踏まえた療育活動をされていると思うが、次の段階（学校や施設）へ行くときに、そこでの連携がどれだけあるかは大変重要だと感じるし、長いスパンで子どもの状況を見ていただいている機関・人が存在するのは、親や子どもにとって、安心できる体制ではないだろうか。保育園・幼稚園から小学校に上がっていく際に、不安なく繋いでいただける場所（機関・人）の体制づくりは必要だと感じる。



◆泉大津市役所

い

◆豊中市児童発達支援センター